

## 夜の商店街にぎわう 三新田まつり2018



にぎわいを見せたよさこいステージ

7月22日、23日、木造商店街の夏の風物詩「夜店まつり」が開催されました。歩行者天国となった路上では、至る所でダンサーやミュージシャンらがパフォーマンスを披露。ステージでは、木造高校吹奏楽部の演奏や、地元「女舞姫」と「AOMORI花嵐桜組」のよさこい演舞などが披露され、観衆を盛り上げました。また、食べ物やヨーヨーすくいなどの出店が軒を連ね、多くの家族連れや若者でにぎわっていました。

7月20日には、下木造地区のカッパ広場周辺で伝統の「灯ろう流し」を開催。家内安全などの願いが込められた灯籠が次々と古田川に流され、参加者はゆっくりと流れて行く明かりを静かに見守っていました。

## ホタルの光に大興奮

7月25日、つがる地球村の藤山邸園庭で「ほたるの鑑賞会」が行われ、もりた保育園（田中潔園長）の年長児26人とその家族らが、幻想的なホタルの光を楽しみました。

つがる地球村では、5月に同園児を招いて約150匹のヘイケボタルを放流しており、7月中旬から成虫が飛ぶ姿が見られていました。

鑑賞会では、園児らが水辺でホタルを探し、淡い黄緑色の光を見つけると「いた！」「光ってる！」と大喜び。手の平で光るホタルの姿に目を輝かせていました。はじめてホタルを見たという野呂歌音ちゃんは「とってもきれい。9匹見つけたよ」と手に乗せたホタルを自慢していました。



手の平でホタルを鑑賞する園児ら



ゲームを楽しむ子どもたち

## 多彩なイベントで大盛況

7月29日、むらおこし拠点館活性化推進協議会（工藤嘉津彦会長）主催の「フラット夏まつり」が行われ、市内外から大勢の家族連れなどが訪れ、にぎわいを見せていました。

会場ではよさこい「AOMORI花嵐桜組」の演舞やスコップ三味線、生バンド演奏などが観衆を魅了。ボードゲームやビンゴゲーム、盆踊りには多くの来場客が参加し、まつりを楽しんでいました。

また、この日は6月21日と22日に行われた日米かかし共同制作のコンテスト表彰式も開催。7月25日までに集まった約400の投票の結果、チーム「8人の新撰組」が作った「サムライ」が金賞を受賞しました。

## 読書に親しみ図書館を楽しもう

つがる市読書まつりが7月29日、市立図書館で開催されました。館内では、クイズの答えをキーワードに本を探す「本探しクイズ」や、約2cmの「ミニミニブックストラップづくり」などいろいろな企画が用意され、参加者は楽しそうに本とふれあっていました。

また、28、29日の2日間、市立図書館開館2周年企画「シャコちゃんコートでおはなし会」が行われ、市内外の読み聞かせグループや市のALT（外国語指導助手）らが、ドラマリーディングや英語での絵本の読み聞かせなどを披露しました。会場には多くの親子連れが訪れ、それぞれの個性を生かしたおはなしを楽しんでいました。



表情豊かなALTらの読み聞かせ

## All English!! すべて英語のキャンプに挑戦

国際化に対応して夢を実現する人材を育成しようと「English Camp at つがる地球村2018」が8月1日より1泊2日で行われ、市内の中学生25人が参加しました。活動中はすべて英語でコミュニケーションするのがこのキャンプのルール。生徒たちは、テーマに沿った寸劇や市のPRポスターの作成・発表、ネイティブスピーカー（英語を母国語として話す人）との交流などに挑戦し、積極的に外国語と異文化を理解しようとしていました。

3年連続で参加の七戸愛子さん（柏中3年）は「引っ込み思案な性格だけど、英語を通じて他校の生徒と積極的に交流できた。将来の夢はキャビンアテンダント。英語でのコミュニケーション活動は貴重な経験」と意気揚々と振り返っていました。



英語でつがる市をプレゼンテーション

## 小田直哉さんが県知事表彰に輝く

森田養護学校高等部2年の小田直哉さんが6月24日、障害者スポーツの推進に寄与した県民を称える「県障害者スポーツ表彰」を受賞しました。

小田さんが取り組む競技は「フライングディスク」。一般的にフリスビーと呼ばれるディスクを使い、的を狙う種目や投げた距離を競う種目などがあります。昨年10月の全国障害者スポーツ大会（愛媛県）で、小田さんは10mの距離からの的を狙う部門を見事制覇し、今回の受賞となりました。つがる市においても、スポーツ栄誉賞を受賞しています。8月7日、小田さんは福島市長に「プレーしている時間が一番楽しい。もっと大きい大会を目指したい」と今後の抱負を話していました。



福島市長を表敬した小田さん

## 小中学生力士が熱い取組

第14回旭富士杯争奪小・中学校相撲大会が8月11日、つがる地球村スポーツパーク相撲場で開催され、県内外の小中学生ら24団体124人が熱戦を繰り広げました。

この日は、伊勢ヶ濱親方（第63代横綱旭富士）も会場に駆けつけ「皆さんの中から、次の青森県を代表する横綱が誕生することを心から願っています」と選手たちを激励しました。

土俵の上では、選手たちが日頃鍛えた力と技をぶつけ合い熱戦を展開。応援に熱が入る家族や観衆から大きな声援を受けていました。

つがる市の出場選手では、奈良昂君（木造中1年）が個人戦中学校1年の部で3位の成績を収めました。



熱戦が続いた土俵上

## やぐら囲みにぎやかに

8月18日、イオンモールつがる柏の駐車場で「つがる市盆踊り大会」が開催され、集まった約1,300人の市民らがやぐらを囲んで夏の風情を味わいました。

やぐらの上では、市内外から参加した35団体が趣向を凝らした衣装で組踊りを披露。下では浴衣姿の観衆や家族連れなどが飛び入り参加し、二重三重の輪になって踊りを楽しんでいました。初参加の三上夢可さん（柏小4年）は「柏音頭を学校で習ったから両親にも教えた。家族で参加できて楽しかった」と笑顔を見せました。最後は故人をしのび出来秋を祈る打ち上げ花火が大輪の輪を咲かせ、来場者を魅了。盆踊りの参加者には盛りだくさんの景品も配られ、大盛況のうちに幕を閉じました。



踊りを楽しむ参加者